

館の共通目標	安定した運営体制の確立。継続事業は効率化させ、検証や計画に十分な時間をとることで質を向上させていく。	
細事業別目標【展覧会】	各職員の専門性を活かして研究や企画力を充実させていく。広報や展示を通して丁寧な伝え方の工夫を行う。	
展覧会名称	表現の生態系	前橋の美術2020
会期・日数	2019/10/12-2020/1/13 /69	2020/2/8-2020/3/15 /32
場所	全ギャラリー	全ギャラリー
学芸担当者	今井	若山
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	・芸術文化振興基金助成金	・前橋の美術実行委員会
最終修正日	2019/6/7	2019/3/20
【目的】 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	<p>2016年度から「表現の森」を通じて社会課題に対する美術館の役割を考察してきた。このような活動を美術館が行う背景を歴史的、美術的視点から改めて問い直す。精神医療や共同体のようなテーマを扱い、現代におけるアートの役割を再考する。文化人類学や社会学の専門家と協働し、美術以外の分野の人々にも関心を持ってもらえるような企画展を目指す。</p> <p>ターゲット: 美術/歴史愛好者、福祉/医療/教育に関わる方</p> <p>1. 現代社会における美術館の役割を問い直す 2. 異なる専門分野の交流 3. 地域の歴史の再発見 4. アーティストと協働した新作発表の機会の創出</p>	<p>前橋ゆかりのアーティストの活動を通して、地域の芸術文化の現在を知ることができる。また、地域とアーティストの協働活動によって、次世代を担う若者や子どもたちに知己の芸術文化を継承することを目指す。</p> <p>ターゲット: 前橋市民、若年層</p> <p>① 前橋ゆかりのアーティスト、ギャラリーほか、アートにかかわる様々な事業主体がネットワークを形成する ② コミュニティの協働と活性化</p>
【①投入】 成立予算	19,888千円	3,300千円
【②内容・活動】 事業の概要	<p>・外部有識者による企画検討委員会の実施(計4回程度) ・参加作家数 30作家程度 ・新作制作 10作品程度 ・企画展/表現の森の内容に連動したシンポジウム及び上映プログラムを実施</p>	<p>「前橋の美術2017」の継続と発展を企図して開催される展覧会および市民参加型イベント。アートを通して地域社会のつながりを再認識する。</p>
主な取り組み計画 ・広報戦略 ・新たな試み	<p>1. 外部有識者と企画会議を重ねることで、専門性また社会課題に対する理解を深める。 2. 福祉/医療/教育分野の人たちに関心を持ってもらえるような先進的な企画とする。 3. 市役所内の他課及び市内の関連団体と連携しながら、広報活動を進める。</p>	<p>1. 市民とアーティストが対話する場をつくる 2. 展覧会と同時期に市内ギャラリー各所で連携企画展を開催する 3. アーティストが学校や福祉施設等に共同事業を提案・実施する</p>
【数値目標】 入場・参加者数	6,000人	5,000人
【人数及び達成率】	人 %	人 %
【事後記入】 【③結果、④成果】 ・目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調書からトピックを転記)		
特記事項		

平成31年度 アーツ前橋 事業企画一覧表【地域AP・文化支援】

館の共通目標	安定した運営体制の確立。継続事業は効率化させ、検証や計画に十分な時間をとることで質を向上させていく。																																																																
細事業別目標 【文化支援ノ普及事業】	作家の制作支援として、地域性や領域横断性といった特徴を運営体制や調査研究に反映させていきたい。																																																																
事業名称	潜在制作(海外) (1)キム・ジュミニ (2)増田拓史 (3)カシヤ・フダコウスキ	潜在制作(群馬県ゆかり)	地域アートプロジェクト(長期プロジェクト) (1)地域調査トーク (2)ダイニングプロジェクト (3)コンセプトマップ作成	文化支援プログラム 前橋まちなかアーツ助成	文化支援プログラム (1)身体芸術 (2)駅家ノ木馬祭り																																																												
時期・日数	(1)2019年6月3日～8月28日 86日間 (2)2019年7月3日～8月30日 59日間 (3)2019年12月9日～2020年2月9日 63	(1)2020年2月～3月頃 30日程度 (2)2020年2月～3月頃 30日程度	(1)2019年11月頃～2020年3月末 (2)2019年12月～2020年3月 (3)2020年3月頃	2019年9月30日～10月27日	(1)2019年9月～2020年3月 (2)2019年9月～10月																																																												
場所	堅町スタジオほか	堅町スタジオほか	市内各地	中心市街地各所	中心市街地各所																																																												
学芸担当者	五十嵐、吉田、池上	五十嵐、吉田、池上	五十嵐、池上	五十嵐、池上	五十嵐、吉田、池上																																																												
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	アートによる文化交流推進実行委員会	アートによる文化交流推進実行委員会	アートによる文化交流推進実行委員会	アートによる文化交流推進実行委員会 で助成 実施:各団体	アートによる文化交流推進実行委員会 で助成 実施:各実行委員会(身体芸術、木馬)																																																												
最終修正日	2019/11/14	2019/11/14	2019/11/14	2019/11/14	2019/11/14																																																												
【目的】 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	・多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。 ・海外のアーティストの目を通じた地域資源の発掘。 ・前橋で制作された作品を通して海外に前橋を発信。 ・地域の作家や住民との長期的な関係性を構築する。 ターゲット:近隣住民、市内 ①地域資源の発掘 ②海外での発信 ③多文化交流の機会創出	・作家の創作活動支援。 ・市内・県内での活躍の場を広げる。 ・東京などの人口集積地や、自分に地縁のある場所だけでなく、まらない発表の場の創出とそのネットワークの形成。 ターゲット:近隣住民、県内 ①館外活動により、幅広い層への活動紹介 ②活動拠点の創出	・作品としての「モノ」ではなく、継続されていく「コト」に視点を置き、活動を行う。 ・アーティストのみならず、様々な人が関わり合い、意見を交わし、世代を超えてつないでいく、長期にわたり市民の創造性に訴えることのできる事業を行う。 ターゲット:地域住民、市内 ①地域資源の発掘と再評価 ②アーティストと市民の知識の共有と交換	・市民が様々な芸術文化に触れる機会の創出。 ・まちなかで活動する芸術文化団体等への支援及び相互の交流機会の創出。 ・まちなかの回遊性の向上によるにぎわいの創出。 ターゲット:近隣在住者、美術以外の芸術表現に興味を持つ市民 ①芸術文化に関わる人材の増加 ②地域で活動している個人・団体への長期的な活動支援	・身体表現等の視覚芸術以外の表現活動の継続した支援 ・市内を中心に文化活動を続ける団体・個人とのネットワーク形成。 ターゲット:芸術になじみのない市民 ①地域の表現者コミュニティとの連携強化 ②地域における活動の場・機会の創出																																																												
【①投入】 成立予算	4,174千円	840千円	2,146千円	1,400千円	1,270千円																																																												
【②内容・活動】 事業の概要	国内外で活躍する外国人作家を招聘し、潜在制作活動を行なう。本年度、韓国の国立現代美術館レジデンス・コヤン(MMCA Residency Goyang)との二国間交流事業により、1名のアーティスト派遣。	群馬県にゆかりのある作家に対し、地元での制作環境を支援するため、潜在制作を行なう。また、スタジオのみを提供するプログラムを行う。	(1)地域調査をもとに、現在の市の課題を掘り上げ、現在における公共の表現の可能性を探る。 (2)共食の場を持ち、意見交換をすることで、これまでの事業関係者のネットワーク強化や新たな関係性の構築を目指す。 (3)これまでの活動を振り返り、事業間の有機的なつながりを視覚化し、今後の指針となりうるような図を作成する。	過去5年実施してきた、まちなかで活動している芸術文化団体への助成。めぐフェス(アート部門)との役割分担を踏まえ、より芸術活動に主軸を置いて継続的(3年以上の実績)に活動する団体・個人を支援する。	まちなかで活動するアーティストやクリエイターなど、芸術文化を担う民間の主体と協働してイベント等を企画する。 (1)身体芸術 (2)駅家の木馬実行委員会																																																												
主な取り組み計画 ・広報戦略 ・新たな試み	・1組は新たに韓国のレジデンススペースMMCA Goyangとの交流プログラムによって作家を交換し、事業を実施する。	・年齢の枠をなくし、多様な年齢・ジャンルの受け入れを行う。 ・潜在はないが、地域のアーティストに対し、スタジオを提供することで制作環境のサポートを始める。	・アーティストや専門家を交えた広く市民参加の可能な勉強会の開催。 ・持続可能/長期わたるプロジェクトの実施に向けた体制作り。	・参加者ミーティングの実施によるプレイヤー相互の理解、相乗効果による発信。 ・助成金申請額を最低1万円に設定し、柔軟に対応 ・自己負担金を設定し、長期的な自立支援を目指す。	・助成事業とすることでより自立的な事業の開催を目指す。 ・他事業との広報連携を行う。 ・自己負担金を設定し、長期的な自立支援を目指す。																																																												
【数値目標】-【結果】	<table border="1"> <tr> <td>指標1</td> <td>招聘アーティスト 2組 派遣アーティスト 1組</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指標2</td> <td>イベント回数 3回</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指標3</td> <td>参加者数 100名</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> </table>	指標1	招聘アーティスト 2組 派遣アーティスト 1組	結果		指標2	イベント回数 3回	結果		指標3	参加者数 100名	結果		<table border="1"> <tr> <td>指標1</td> <td>招聘アーティスト 1組 スタジオ利用 1組</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指標2</td> <td>イベント回数 1回</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指標3</td> <td>参加者数 50名</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> </table>	指標1	招聘アーティスト 1組 スタジオ利用 1組	結果		指標2	イベント回数 1回	結果		指標3	参加者数 50名	結果		<table border="1"> <tr> <td>指標1</td> <td>参加アーティスト数 4組</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指標2</td> <td>イベント回数 4回</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指標3</td> <td>参加者数 200名</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> </table>	指標1	参加アーティスト数 4組	結果		指標2	イベント回数 4回	結果		指標3	参加者数 200名	結果		<table border="1"> <tr> <td>指標1</td> <td>支援対象団体数 11組</td> <td>結果</td> <td>11組</td> </tr> <tr> <td>指標2</td> <td>イベント回数 15回</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指標3</td> <td>入場者数 1000名</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> </table>	指標1	支援対象団体数 11組	結果	11組	指標2	イベント回数 15回	結果		指標3	入場者数 1000名	結果		<table border="1"> <tr> <td>指標1</td> <td>参加団体数 2組</td> <td>結果</td> <td>2組</td> </tr> <tr> <td>指標2</td> <td>総参加者数 60名</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指標3</td> <td>総参加者数 50名</td> <td>結果</td> <td></td> </tr> </table>	指標1	参加団体数 2組	結果	2組	指標2	総参加者数 60名	結果		指標3	総参加者数 50名	結果	
指標1	招聘アーティスト 2組 派遣アーティスト 1組	結果																																																															
指標2	イベント回数 3回	結果																																																															
指標3	参加者数 100名	結果																																																															
指標1	招聘アーティスト 1組 スタジオ利用 1組	結果																																																															
指標2	イベント回数 1回	結果																																																															
指標3	参加者数 50名	結果																																																															
指標1	参加アーティスト数 4組	結果																																																															
指標2	イベント回数 4回	結果																																																															
指標3	参加者数 200名	結果																																																															
指標1	支援対象団体数 11組	結果	11組																																																														
指標2	イベント回数 15回	結果																																																															
指標3	入場者数 1000名	結果																																																															
指標1	参加団体数 2組	結果	2組																																																														
指標2	総参加者数 60名	結果																																																															
指標3	総参加者数 50名	結果																																																															
【事後記入】 【③結果、④成果】 ・目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調査からトピックを転記)																																																																	
特記事項																																																																	

平成31年度 アーツ前橋 事業企画一覧表【ラーニング等】

館の共通目標	安定した運営体制の確立。継続事業は効率化させ、検証や計画に十分な時間をとることで質を向上させていく。							
細事業別目標 【文化支援/普及事業】	教育や福祉など各分野に対して、芸術を通したラーニングの役割をしっかりと示しながら実施していきたい。							
事業名称	アーティスト・イン・スクール	あーつひろば	アーツナビゲーター研修	表現の森継続事業	数値目標記載事業			
時期・日数	アーティスト・イン・スクール 年4回程度	7月、10月、11月、1月、3月	7月～3月 6回	(1)アリスの広場 12回/1年 (2)南橋団地 12回/1年 (3)えいめい 6回/1年 (4)のぞみの家 6回/1年	(1)メンバーシップ会員 個人:90人(83人) ペア:50人(42人) 賛助:2人(1人) 法人:25社(21) 収入:1,000千円(819千円)			
場所	市内小中高等学校	スタジオ・交流スペース	スタジオ・ギャラリー	ギャラリー、館外(アリスの広場、 桃川小学校、南橋団地、えいめい、 のぞみの家など)	(2)先生の無料招待 ワーク 30人(19人)			
学芸担当者	吉田、若山、今井	沼下、若山	辻	今井	()内H30年度実績			
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	・アートによる対話を考える実行 委員会 ・文化庁クラスター形成支援補助 金			・アートによる対話を考える実行 委員会 ・文化庁クラスター形成支援補助 金				
最終修正日	2019/6/7	2019/6/7	2019/6/7	2019/6/7	2019/6/7			
【目的】 ・参加者層のターゲット ・ねらい	<p>学校生活の中で質の高い芸術に触れ、アーティストとの交流を行いながら児童・生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>ターゲット: (1)小学校～高校の児童・生徒、 教員</p> <p>・児童・生徒が現代美術の表現の多様さを知る ・アーティストと活動を行うことで、 表現力が身につく</p>	<p>1.サポーターやアーティストによる多様な芸術体験を通して、アーツ前橋への来館促進を行い、将来の自主的な鑑賞者を育成する。 2.サポーターが企画・運営のノウハウを身につける。</p> <p>ターゲット:アーツ前橋に来館したことのない親子(隣接施設利用者等)</p> <p>・初めて来館して造形活動や鑑賞を体験しながら、アーツ前橋は自己や他者の表現が認められる場所であることを理解する ・サポーターが企画や運営へ継続的に関わる。</p>	<p>美術鑑賞は敷居が高いと思っている人たちが作品や作家についての知識を得ることが作品鑑賞だと考える人に、自分の眼で作品鑑賞する楽しさを知ってもらう。</p> <p>ターゲット:事業主旨を理解し、アートやコミュニケーションが好きな人</p> <p>・アーツナビゲーターのスキルアップと、研修後も自主的な活動を行い、展覧会ごと「おしゃべりアートデイズ」を実施できるような組織作り</p>	<p>・アート/美術館が社会課題に対してどのような役割を果たせるのかを考える機会を創出する。 ・アーティストを軸にしたアートプロジェクトを運営することのできる人材を育成する。 ・地域の福祉/教育現場との連携関係を築く。</p> <p>ターゲット:美術館から精神的/物理的にもアクセスが最も難しいと考えられる人</p> <p>1.アート/アーティストを通じて福祉/医療/教育における社会課題を見つめ、美術館へのアクセスに困難を抱える人たちへプログラムの参加を促進する。 2.アウトリーチプログラムを通じて、美術館へのインリーチへ繋げる。</p>				
【①投入】 成立予算	1,040千円	900千円	448千円	2,838千円				
【②内容・活動】 事業の概要	(1)アーティスト・イン・スクール:アーティストの学校への派遣 (2)教員向け広報物作成、無料招待ワーク:児童生徒とのつなぎ手である教員向けに広報を行い、アーツ前橋の事業への理解を促す	サポーター等と協働しながらアーツ前橋に親しみ、多様な芸術に触れるワークショッププログラムを実施	来館者と一緒に対話しながら作品鑑賞をするファシリテーターの育成。作品研究の方法や、ガイドプランの作成や、実践でのコーチングを行いながら、情報提供型のファシリテーションを学ぶ。	(1)アリスの広場×滝沢遼史 (2)南橋団地×中島佑太 (3)市内高齢者施設×石坂玄士/山賀さくら (4)のぞみの家×廣瀬智央/後藤朋美 が、定期的なワークショップやリサーチプログラムを行う。				
主な取り組み ・広報戦略 ・新たな試み	実施予定校を前年度に調整し、決定する	キッズフェスタ等まちなかの大規模イベントと連携し、広報活動を効果的にを行う	展覧会会期中に「おしゃべりアートデイズ」を実施し、来場者とともに作品鑑賞ツアーを行う。公民館などに参加者を呼びかける。	H30年度事業の反省や課題を考えながら、関係各所との連携関係を深める。また、プロジェクトを広く周知するための記録媒体の拡充を図る。				
【数値目標】-【結果】	実施校数 4校	結果 4校	実施回数 大規模:3回 小規模:2回	結果	自主研修回数 16回	結果	ワークショップ実施回数 36回	結果
指標1					おしゃべりAW参加者数 200人		参加者数 400人	
指標2	参加者数 学校規模による		参加者数 450人		受講継続数 10人			
指標3								
【事後記入】 【③結果、④成果】 ・目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調査からトピックを転記)								
特記事項								

前橋の美術2020 ～トナリのビジュアル～

□会 期：

2020年2月8日（金）～2020年3月15日（日） 開館日数：32日

□開館時間：10時～18時

□会 場：アーツ前橋 全ギャラリー、前橋中心市街地各所、市内小中学校各校

□観 覧 料：無料

□主 催：前橋の美術実行委員会

共 催：前橋市、上毛新聞社

□出品点数：未定

□参加作家：49人

[絵画] 有村真鐵、井田秋雄、今井充俊、岡田歩、金井訓志、酒井重良、坂本敏、田中正、
中島涼介、福井諭史、藤原泰佑、堀越吉行

[版画] 糸井千恵美、木村真由美、多胡宏

[写真] 志村真悠、長瀬正太

[彫刻] 今井由佳、大島康幸、下山直紀、関口光太郎、林耕史、深須砂里、MAKOTO、
三谷慎、村上雅紀、ヨシダノボル

[工芸] 今井ひさ子、富田文隆

[デザイン] 長竹真典

[服飾デザイン] 天笠恵子

[プロダクトデザイン] 手島彰

[現代美術] 小野田賢三、内田望美、遠藤夏香、小泉明郎、喜多村徹雄、カナイサワコ、
後藤朋美、ジル・スタツサール、杉本篤、反町潤、滝沢達史、司修、藤口諒太、
八木隆行、渡邊辰吾

[ラウンドスケープアーキテクト] 中村敬太郎

「ダンス」Abe “M” ARIA

□印刷物：■ポスター：1,000部 ■チラシ：70,000部

■図録：部数未定（販売価格未定）

□関連事業：① オープニングレセプション

日時：2月7日（金） 17時～

会場：ロブソンコーヒーアーツ前橋店

② ギャラリートーク

日時：2月8日（土）、9日（日）、15日（土）、22日（日）、

3月7日(土)、14日(土)、各日4名の作家が参加
会場：ギャラリー

③ シンポジウム(内容未定)

日時：2月29日(土) 時間未定

会場：アーツ前橋 ギャラリー2

④ ディスカッション「市民と出品作家の出会いトーク」

日時：2月26日(日) 14時～16時

会場：アーツ前橋 ギャラリー2

⑤ 街なか展示ツアー

会期：2月9日(日) 11時～13時

会場：前橋市内各所

地域アートプロジェクト（長期プロジェクト）

（1）地域調査+トーク

現在の地域社会における重要な課題としての「多文化共生」をテーマに新しいアートプロジェクトを開始する。本年度はリサーチャーによる地域調査と、「地域／公共における表現」をテーマとしたトークイベントを開催し、市民と問題意識を共有し、事業を開始することを目的とする。本年度の調査をもとに、次年度行うプログラムの検討を行う。

□スケジュール：地域調査 11月～3月末

トークイベント 3月後半に実施

□リサーチャー：福西敏宏（滞在制作コーディネーター）

小出和彦（劇作家・演出家、「身体の人たち」）

（2）ダイニングプロジェクト「アーツであさごはん（仮称）」

内容：月一回、ロブソンコーヒーアーツ前橋店において、ゲストを読んだ朝食会を行う。これまでの事業関係者のネットワーク強化及び、新しい関係性の構築を目指し、一般の参加社にとっても可能な開かれたイベントとして実施する。

□スケジュール

プレ事業 11月26日（火）8:30～9:30 ゲスト：滝沢達史氏（表現の森）

第一回 12月中旬予定、ゲスト：AIRアーティストなど

（3）コンセプトマップ制作

アーツ前橋のこれまですべての活動をまとめ、それぞれの事業単位の関係図ではなく、有機的なつながりを見出せるようなコンセプトマップを作成する。また、印刷物として制作するだけでなく、館内の広報ツールとしても転用するための基礎となる。

□スケジュール

3月中に印刷物を制作・納品予定。

令和元年度 アーティスト・イン・スクール

アーティストを学校へ派遣して授業やワークショップ等を行う事業であり、平成28年度から3年間、小中学校、ならびに部活動や空き教室滞在型のプログラムなどを行ってきた。

今年度は3年間の事例を踏まえ、さらなるアーティスト・イン・スクールの可能性を検討していく。

□対象校

前橋市内の小中学校 3校

(1) 第六中学校[継続]、(2) 勝山小学校[新規]、(5) 桃川小学校[継続]

□アーティスト及び事業予定

① アーティスト：住中浩史（すみなか・ひろし）

対象：前橋市立第六中学校

日程：2019年7月～2020年2月

内容：美術担当の先生と美術の授業を住中氏がともに作る。本年度は、関東甲信越地区造形教育研究大会群馬大会の公開授業として進める。タブレット端末を使用しながら中学生たちとの映像制作を行う。

○プロフィール：

1977年生まれ、広島県広島市出身。明治大学商学科商学部 卒業地域『で』アートを行うのではなく、その地域『の』アートとはなにかを絶えず模索しながら、制作・行為・会話の中で実践を重ねている。近年は、表現の専門家のためでない『場』づくりをメインに活動。色々な人が『何かしたくなる』アフォーダンスのある『場』と『出来事』を創出し、その『場』が時間をかけて使われていく中で、小さくとも新しい地域の文化が生まれることを目指している。

② アーティスト：尾花藍子（おばな・あいこ）

対象：勝山小学校 5年生2クラス

日程：1月17日（金）、21日（火）で調整中

内容：身体表現・コンテンポラリーダンスのアーティストを招聘し、アートというジャンルの多様さや、作品制作の過程を体感してもらうことを目的とする。今回実施する「非言語コミュニケーションワークショップ」は、尾花氏が作品制作を行う際のメソッドから生み出されたものである。視覚以外の五感を重要とするワークショップを通じて、他者とのコミュニケーションの可能性を探るようなプログラムとなっている。

○プロフィール：

東京都出身。美大絵画学科卒業後、身体表現を始める。近年は主に振付家・演出家として活動。ダンスカンパニー〈ときかたち〉主宰。人間の微細な身体と感情と機微を表出させ、「あわい（間）の身体」を立ち上げる。「時間のある抽象絵画」のような舞台作品を制作。作品制作の手法をもとに、企業や様々な業界で「非言語コミュニケーションワークショップ」を開催している。横浜ダンスコレクション2016コンペティションIファイナリスト。2018年2、3月に〈ときかたち〉アーツ前橋の滞在制作事業に参加。

③ アーティスト：中島佑太（なかじま・ゆうた）

対象：桃川小学校 4、5、6年生の全9クラス

日程：1月～2月 ※具体的な日程は調整中

内容：前年度よりの継続事業。これまでは、図画工作授業の補助教員として子どもたちと交流をしていたが、本年度は5年生の3クラスは、昨年から引続き図画工作授業の補助教員として参加。4年と6年は中島氏による授業を行う。4年生は、図画工作授業の枠内で、絵画鑑賞を通じて環境問題などを考えるプログラムを実施予定。6年生は、学校内のルールを改めて考えるワークショップを実施予定。

○プロフィール：

1985年群馬県前橋市生まれ。幼少期を郊外型団地で過ごしたもと野球少年。野球っぽいから、という理由でワークショップを始める。2016年にアーツ前橋、群馬大学の学生たちと旅をテーマにしたワークショップユニット「LDK ツーリスト」を立ち上げ、南橋団地でワークショップを行う。

□その他

事業報告・記録映像作成

報告書作成：パンフレットA4縦中綴じ8ページ 3000部

事業コーディネート

委託：NPO法人まえばしプロジェクト